

## 「世界適塾構想」に関する学内説明会を開催

10月14日(火)コンベンションセンターで、全教職員を対象とした「世界適塾構想」に関する学内説明会を開催し、サテライト会場(豊中キャンパス、箕面キャンパス、大阪大学東京オフィス)を含め、約600名の教職員が参加しました。

2014年を「世界適塾」元年とし、「世界適塾構想」の下、様々な大学改革・教育改革を大阪大学が一丸となって推進していくために、今後、大阪大学が目指す方向性、取組等について、平野俊夫総長から説明がありました。

最後に平野総長から教職員に向けて、「大阪大学の夢を叶えていただきたい。そのために目の前の小さなことでもいいから努力をしていただきたい」と熱いメッセージがありました。

※説明会の動画及び資料、世界適塾パンフレットは、本学公式ウェブページからご覧いただけます。

※「世界適塾構想」は、文部科学省の公募型事業「スーパーグローバル大学創成支援」(タイプA)に採択されています。



世界適塾パンフレット



## 大阪大学未来戦略光科学連携センターの設置

10月1日(水)、独立行政法人理化学研究所との研究協力のもと、同研究所播磨事業所(SPring-8)内に、大阪大学未来戦略光科学連携センターを設置しました。

本センターは、SPring-8との組織的な連携の下に、世界最先端の基盤技術ならびに国際競争力ある要素技術と人材を連携させ、大阪大学のみならず我が国の高エネルギー光科学とその利用技術分野における国際競争力を高めることを目的として開設されました。

10月31日に開催された本センター開所式では、平野俊夫総長による挨拶、木村直樹文部科学省研究振興局学術機関課長、川合眞紀理化学研究所理事より来賓祝辞が述べられた後、テープカットが行われ、来賓、センター関係者等、100名を超える出席者を得て盛大に挙行されました。

センター長  
理事・副学長 相本 三郎



## UC/UCEAP大阪オフィスの開所

12月3日(水)、世界有数の教育研究機関である米国・カリフォルニア大学の西日本における活動拠点となる「University of California(UC)/University of California Education Abroad Program (UCEAP)大阪オフィス」が豊中キャンパス文理融合型研究棟に開所しました。

UC/UCEAP大阪オフィスの主な活動は以下のとおりです。

- ・本学とUCとの相互の学生交流の推進
- ・本学既存の学生交流プログラムの拡大
- ・主にUC学生を対象とする短期プログラムの企画、実施
- ・本学へ受け入れたUC学生のケア
- ・UCへの留学希望者(本学学生)へのアドバイス
- ・UC教員による本学学生への英語授業(集中講義、特別講義を含む)の提供
- ・UC教員の専門研究分野に関する、本学教員との共同研究、意見交換、情報収集
- ・UCとの国際シンポジウム、ワークショップなどの企画、実施
- ・UCの西日本協定大学との学生交流推進

オフィス長は、UC東京スタディセンター長が兼務し、オフィスの活動を遂行、支援するために、UCのFacultyから特任教員(常勤)を定期的に招聘する計画です。

また、UC関係者から特任教員としての非常勤職員を雇用し、活動をさらに推進することを目指しています。今後、カリフォルニア大学と大阪大学の連携が緊密になり、交流がより一層活発となることが期待されます。

理事・副学長 岡村 康行



## 役員室だより

### 「未来戦略」に向けた人事・給与システム柔軟化の更なる展開

#### 1. 新たに国内外の研究機関とクロス・アポイントメント協定を締結

「大阪大学未来戦略(2012-2015)」に掲げる「柔軟な人事制度の構築」の実現に向け、他機関との混合給与を制度化した「クロス・アポイントメント制度」を平成26年1月1日に制定しました。

これまでに、国内では理化学研究所と本学核物理研究センターにおいて平成26年4月に同協定を締結し、理化学研究所の研究者を本学に受け入れたことをはじめ、更に、国内外の研究機関との協定を締結しています。

<国内>

協定機関名：東京工業大学 地球生命研究所  
大阪大学 大学院情報科学研究科  
対象者：四方哲也(よも てつや)教授(情報科学研究科)を東京工業大学へ派遣  
協定期間：平成26年11月1日～平成34年3月31日

<海外>(平成26年12月1日現在締結済み一覧)

| 機関名(国名)                                | 実施部局            | 協定期間               |
|--|-----------------|--------------------|
| 1 ナント中央理工科大学(フランス)                     | 工学研究科           | H26.9.22～H27.3.31  |
| 2 ヨーロッパ日本研究所(スウェーデン)                   | 言語文化研究科         | H26.10.1～H27.3.31  |
| 3 フィンランド国際問題研究所(フィンランド)                | 言語文化研究科         | H26.10.1～H27.3.31  |
| 4 ヘブライ大学(イスラエル)                        | 言語文化研究科         | H26.10.1～H27.3.31  |
| 5 TORUMF 研究所(カナダ)                      | 核物理研究センター       | H26.11.8～H27.3.31  |
| 6 ウィニペグ大学(カナダ)                         | 核物理研究センター       | H26.11.12～H27.3.31 |
| 7 インファ大学(大韓民国)                         | 核物理研究センター       | H26.11.17～H27.3.31 |
| 8 プリマス大学(イギリス)                         | 工学研究科           | H26.12.1～H27.3.31  |
| 9 ムハンマド5世大学(モロッコ)                      | 工学研究科           | H26.12.1～H27.3.31  |
| 10 ロイヤルメルボルン工科大学(オーストラリア)              | 接合科学研究所         | H26.12.1～H27.3.31  |
| 11 インド工科大学(インド)                        | 基礎工学研究科         | H26.12.1～H27.3.31  |
| 12 ジェームススクック(オーストラリア)                  | 基礎工学研究科         | H26.12.1～H27.3.31  |
| 13 UNIVERSITÉ LIBRE DE BRUXELLES(ベルギー) | 免疫学フロンティア研究センター | H26.12.1～H27.3.31  |

海外の研究機関とのクロス・アポイントメント協定により受け入れる教員は、本学未来戦略機構グローバル化推進部門に受け入れ、各共同研究実施部局で勤務することとしており、今年度中には約30件程度の規模での締結を予定しております。

### 平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果の公表

第2期中期目標期間の4年目となる平成25年度の業務の実績に関する評価結果が国立大学法人評価委員会から公表されました。

本学は、「大学に求められる課題に柔軟かつ機動的に取り組み、積極的な大学改革を進めることを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでいる」と評価され、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」の各事項については、「順調に進んでいる」との評価を受けました。

一方で、法令遵守に関する課題として、「臨床研究に関する倫理指針違反」、「麻薬の不適切な管理」、「個人情報情報の不適切な管理」、「施設の貸し付けに関する会計検査院の指摘」、「遺伝子組み換え施設での未届けの使用」が挙げられ、「その他の業務運営」の事項については、「やや遅れている」との評価を受けました。

法令遵守違反が起きますと、当然のこととして、厳しい評価となりますので、今後は、そのような事案が生じることのないよう、ご留意をお願いします。

なお、評価結果全文については、本学公式ウェブページに掲載しています。トップページから、「評価結果」で検索してご覧ください。

理事・副学長 恵比須 繁之

#### 2. 「年俸制」適用対象の拡大

平成26年1月に、教員の給与制度の選択肢を増やすことで、教員の採用についての各部局の自由度を上げ、人事・給与システムの柔軟化を図るために年俸制(65歳定年)を「国際的に優れた研究者等で大学が特に必要と認める者(教授クラス)」を対象として導入しましたが、更にそれを促進すべく平成26年7月から「定年退職前(58歳以上の教職員退職手当規程適用者)の教授」について適用対象の拡大を行いました。

今後とも、引き続いて人事・給与システムの柔軟化を図るべく、適用対象の拡大についての検討を行うこととしています。

理事 大木 高仁

### 大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社の設立

本学が、大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社の発起人として提出した産業競争力強化法に基づく「特定研究成果活用支援事業計画」が、平成26年9月1日付で文部科学省・経済産業省から認定を受け、12月18日付で同社に対する本学からの出資金の額が文部科学省から認可されました。これを受けて、12月22日付で会社登記を行い、大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社が設立されました。



同社は、大学に対する出資事業(官民イノベーションプログラム)の推進に当たり、本学の共同研究講座(部門)・協働研究所をはじめとした共同研究の実績等も踏まえつつ、本学の研究成果を事業化しようとする大学発ベンチャー等へ、投資による資金供給等の支援活動を実施します。

大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社の投資活動実施に関しては、同社を無限責任組合員とする投資事業有限責任組合(ファンド)の文部科学省・経済産業省による計画認定及び本学からファンドに出資する金額の文部科学省による認可を経て、ファンドを設立した後に開始されることになります。

理事・副学長 馬場 章夫

#### \*会社概要

|       |  |
|-------|--|
| 会社名   | 大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社<br>(OSAKA University Venture Capital Co., Ltd.) |
| 所在地   | 大阪府吹田市山田丘2番8号<br>(大阪大学テクノアライアンス棟8階)                                |
| 設立日   | 平成26年12月22日  |
| 事業内容  | 投資事業等(特定研究成果活用支援事業)  |
| 出資金   | 70百万円<br>(資本金35百万円、資本準備金35百万円)                                     |
| 代表取締役 | 松見 芳男  |
| 株主    | 国立大学法人大阪大学(100%保有)   |

### 施設整備とキャンパス環境の改善

10月に、吹田キャンパスに生命システム棟が完成しました。

この建物は、本学の各研究科の有する国際的に卓越した研究基盤を基に、世界先端のバイオイメージング技術を集約することにより、分子・細胞イメージングの研究教育における国際拠点の整備を行うことを目的に建てられました。

特徴的なDNAを思い浮かべる二重らせん構造のステンレス・メッシュによる外観は、光や風などの環境要素によってその表情を変え、建物外観に揺らぎのある表情を生み出し、外部環境に呼応する外皮は生物の外皮や細胞膜にも喩えることができ、本施設を表象するものとなっています。

また、同キャンパスの北東側では、次世代コンピューターの導入が予定されているサイバーメディアセンターITコア棟の新築工事及び本館の改修工事を進めています。

アカデミッククラウドの主要な拠点としてキャンパスの象徴となるように、同棟は自然の多い周辺環境にも配慮し、1/fゆらぎをモチーフにした外装パターンを採用することにより、印象的なフォルムで周囲に開かれた軽やかで柔らかなイメージの外観となりました。

理事・副学長 恵比須 繁之



生命システム棟



サイバーメディアセンターITコア棟

## 役員室だより

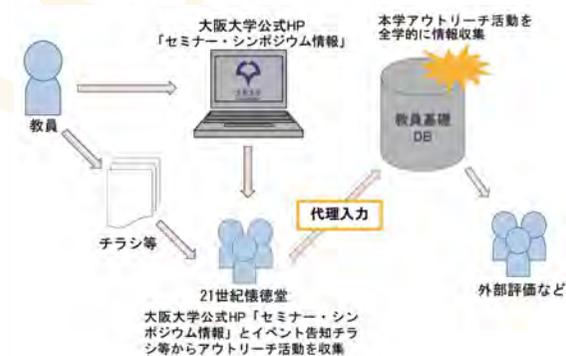
### アウトリーチ活動支援、代理入力を開始

平成26年12月1日以降に実施された市民向けの公開講座やサイエンスカフェ等の教員のアウトリーチ活動を対象に、全学的な情報収集及び教員基礎データへの代理入力を開始しました。21世紀懐徳堂が主体となり、大阪大学公式ホームページのセミナー・シンポジウム情報や教員・部局等から提供されるチラシ等からアウトリーチ活動の情報を集め、教員の代わりに教員基礎データ内の「社会活動（講演会・展示会）」に登録します。

教員基礎データベースに代理入力することで、教員の負担を軽減するとともに、本学教員によるアウトリーチ活動の確実な情報発信を全学的に促進します。さらに、集約された情報を分析し、学内外の評価につなげるとともに、大阪大学の学外へのブランド力を強化します。

社会からの理解と継続的な信頼を得て、地域に生き世界に伸びるため、アウトリーチ活動の支援に努めてまいります。構成員のみなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

理事・副学長 岡村 康行



### 報道関係者との懇談会で学内施設見学を実施

10月22日(水)、在阪報道関係者と大阪大学との懇談会を開催しました。

これまで、年に2回、中之島センターで開催していた同懇談会を、今年から、年に4回とし、そのうち2回は学内施設見学なども取り入れていくことにしました。

今回は、工学研究科の牛尾知雄准教授の説明で、気象用フェーズドアレイレーダを22名の報道関係者が熱心に見学しました。

その後、場所を銀杏会館に移し、平野俊夫総長をはじめとする執行部と懇談を行いました。

また、10月29日(水)には、大阪大学東京オフィスにおいて、今年2回目の首都圏の報道関係者との懇談会も開催しました。

今後も大阪では年4回、東京では年2回、報道関係者との懇談会を開催することにしておりますので、各部局の最新の研究成果やトピックスなど情報提供をお願いいたします。

理事・副学長 岡村 康行



### 平成26年度情報セキュリティ研修を実施

「大阪大学情報セキュリティ対策基準」に定める教育の一環として、平成26年度情報セキュリティ研修を11月14日(金)に吹田キャンパス、11月27日(木)に豊中キャンパスでそれぞれ実施し、200名以上の多くの教職員の参加があり、情報セキュリティに対する関心の高さがうかがわれました。

本研修は、教職員の方々に、業務上情報システムを利用する際のリスクや、身の回りに潜む脅威を認識してもらうことを目的に行っています。

情報セキュリティに対するリスクマネジメントは、重要な経営課題の一つであり、機密情報や個人情報等の重要な情報を取り扱う場合に、これを保護することは、大学の社会的責務であります。

今後も、定期的に情報セキュリティ研修(一般利用者向け、システム管理者向け)を計画していきますので、ご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

理事・副学長 馬場 章夫



### 大阪大学未来セミナーを実施

「大学に関する諸課題についての研修」の一環として、本学若手職員を対象とする「大阪大学未来セミナー」(平成26年9月18日～11月6日、全8回講義)を実施しました。3回目となる今年度のセミナーには、事務職員、技術職員計25名が参加し、研究力強化や広報戦略など学内の第一線で活躍する教員等による講義及びグループワークに取り組んだほか、医学部附属病院や図書館の視察などを行い、大学を取り巻く現状や課題、大学と社会との関わりなどについて様々な視点から認識を深めました。

講義最終日には、これまでの研修成果を踏まえ、5名ずつの班に分かれ検討を重ねた『“世界トップ10”を目指す大学づくりに向けた提案』を、理事、副学長、監事などを前にプレゼンテーションを行いました。(各班の発表テーマは次のとおり。)

- A班・ボトムアップ  
「地域に根差した病院の再開発計画」
- B班・チーム適塾  
「バスから目指す世界トップ10!」
- C班・チームオモロイ  
「みんなでオモロイ大学つくりましょう」
- D班・チームナチュラル  
「大阪大学の学生をもっと勉強させる  
ー学生がもっと勉強したくなる環境づくりー」
- E班・チームためぎ  
「優秀な学生を獲得するために受験者層を広げる」

大学が抱える課題への様々な提案を受け、理事からは病院の在り方の見直しや入試広報の改善というテーマ設定と、それらに対する具体的な課題解決策を評価する意見などが出されました。

本学が目指す「世界適塾構想」の実現のためには、大学構成員それぞれが持っている力を発揮し、目の前の課題に着実に取り組んでいくことが不可欠です。来年度も、大阪大学の発展を担い、ともに考え、学び続けられる職員の育成に寄与する取り組みを続けていきます。



総長室PMT